

NewsLetter



自治医科大学地域医療オープン・ラボ

Vol.119,May,2017

がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン
がん治療のブレイクスルーを担う医療人育成
総合医・地域腫瘍学コース

地域におけるがん医療の内容・必要性とエビデンスの創出

自治医科大学附属病院腫瘍センター 臨床腫瘍科
自治医科大学大学院医学研究科 臨床腫瘍学
藤井 博文

がんは、1980年に我が国の死因のトップとなり、現在二人に一人が罹患し三人に一人が亡くなる国民病となっており、自身・家族がいつ当事者になってもおかしくない状況があります。超高齢化社会に入った人口構成への変化、医療費の増加などの諸問題も加わり、以前から国は対がん政策をとってきました。さらにそれを加速させるため、2008年がん対策基本法が制定されました。大学院医学研究科におけるがん教育を進めることを目的に、文部科学省の事業として、第I期がんプロフェッショナル養成プラン、その後第II期がんプロフェッショナル養成基盤推進プランが行われ、自治医科大学大学院でも他大学との連携をもって活動しています。第I期ではがんを専門に診る「がん総合医」の育成を、第II期では「がんも診れる総合診療医」の育成を目指しました。



現在の第II期、総合医・地域腫瘍学コースは『地域第一線医療現場において全年齢層のがん患者に対応できる「地域がん診療の専門性を持った総合医」を養成しチーム医療の体制を構築することで地域に実情に沿ったがん診療を提供する』ことを目的としています。これは、がん対策基本法の趣旨である「がん患者を含む国民が、がんを知り、がん向き合い、がんを負けることのない社会を構築」を達成するには、がん専門医だけの育成だけでは不十分であり、生活の拠点である地域で要求され可能ながん診療の充実が必要だからです。具体的な活動内容としては、大学院の受講生へのがん教育のみならず、多職種に及ぶ附属病院・周辺地域の医療者も参加する勉強会、がん患者のサロン、一般市民への公開講座、さらに各県人会での講義を行っています。

地域で要求され実践できるがん治療としては、薬物療法があります。しかし、副作用対策や投与の安全性、高額な薬価等の問題があり、最新の治療が提供できるわけではありません。調査（総合診療部 小松先生）によれば、乳癌や前立腺癌に対する内分泌療法が行われており、地域の高齢者増加への対応として重要と考えられます。しかしこの2疾患、‘Internal Medicine’のText Bookには記載ありますが、「内科学」の教科書には記載がありません。今後の総合診療医教育の中に、Medical Oncologyの部分を組み込んでいかなければならない一例でありましょう。

緩和ケアは、これまでは終末期医療の代名詞のように提供する時期を意味していましたが、本質は苦痛を和らげることであり、能動的な苦痛の把握から診断時からの関与が進められるようになっており、基本的な緩和ケアの実践者は、かかりつけ医やがん治療医であるとされています。療養の場も、住み慣れた自宅・地域の希望、今後の病床数の減少から、在宅医療の需要の増加が見込まれ、がんの看取りも増えることでしょう。苦痛を伴い、病状の変化が早く、「死」という大きな悲しいイベントを迎えるがんにおいては、どこでどこまでどのように治療を行うか、予め相談しておく Advance Care Planning (ACP) を導入することも考えられています。ACP において患者は最も自分を知っている医師からを希望しますが、正確な詳しい説明をする一方 ‘Bad News’ に相当するため communication skill は重要であり、今後の人生までになるとかかりつけ医の task でもあります。

がんは、身体的苦痛、精神的苦痛だけでなく、社会的苦痛、霊的苦痛などがあり、全人的な対応が必要です。第 I 期では「全人的ながん医療の実践者養成」として、多彩な問題を多職種協働のチーム医療の体制で解決していくことを目指しました。そこでは、全人的な視点で全体を理解し、個ではなく、チームリーダーとしてメンバーを尊敬して全体で結果を出すという考え方の重要性が認識されました。しかし、患者数増加、治療期間の長期化、複雑・多彩な治療と医療の質担保を掛け合わせると膨大な量になり、これはこういった医療者への啓発だけでは支えきれないため、公開講座等で一般にも広く呼びかけています。

地域がん医療に関して、これまではわかっている一般化している内容を伝えてきました。SD が大きくなりやすい地域において課題がたくさんあるはずですが、残念ながらその課題を解決するための臨床研究はほとんどありません。一方で大学病院では、地域の課題がわかりません。今後の時代の変化に対応していくには、課題の抽出と解決に向けた研究と評価を繰り返す PDCA cycle の考え方を導入していく必要があるでしょう。地域医療オープンラボでは、研究に関する支援、CRST による論文作成支援があります。今後のがんプロの発展形として、これらを通じた地域のがん医療においてエビデンスを創出し、この領域でも「地域医療の王者、自治医大！」を、と考えていますので、是非お声がけください。

地域医療オープン・ラボ News Letter 原稿募集

地域医療オープン・ラボでは、自治医大の教員や卒業生の研究活動を学内外へ発信するために、「自治医科大学地域医療オープン・ラボ News Letter」を定期的に発行しています。<http://www.jichi.ac.jp/openlab/newsletter/newsletter.html>

- ☆ 自治医大の教員や卒業生の研究活動をご紹介ください
- ☆ 自薦・他薦を問いません
- ☆ 連絡先：地域医療オープン・ラボ openlabo@jichi.ac.jp